

大東文化大学 東洋研究所所報

2010.6 No.53

目次

片岡弘次教授勲章受章 パキスタン政府より「シターラ・エ・イムティアーズ（輝ける星）勲章」を受けて …………… 1
2010年度東洋研究所共同研究課題 …………… 3
2009年度東洋研究所共同研究班活動報告 …………… 5 （国際交流）
吉林師範大学東亞研究所との交流協定締結 …… 7

（国際交流講演会） 通訳者としてのプロ意識の生む通訳者の存在価値 とは 一中・日通訳トレーナーの視点から …… 8
名簿 …………… 9
2009年度東洋研究所会議報告 …………… 10
2009年度発行『東洋研究』 …………… 10
新刊案内 …………… 12

パキスタン政府より「シターラ・エ・イムティアーズ（輝ける星）勲章」を受けて

国際関係学部国際文化学科教授 片岡弘次

この勲章は私にとってあまりにも眩し過ぎ、その前では何かじっとしてられない気持ちにさせられます。本当は私ひとりに与えられたのではなく、大東文化大学の教職員全員と国際関係学部の学生全員にパキスタン政府から与えられたものと考えべきものであります。

というのは国際関係学部が出来てまる24年がたちました。この間、国際関係学部の現地研修でウルドゥー語履修者はパキスタンへ既に20回を超えて研修で行っており、これがパキスタンで大東文化大学をだいぶ有名にさせました。

また今から13年前、パキスタン人ならその催しの名を聞くだけで血が騒ぐ詩会をこの大東文化大学で開きました。大使館、パキスタン航空、パキスタン銀行の人などを招待してパキスタンさながらの詩会をやりました。

詩会は大好評で、それから毎年、大東大の東松山キャンパスで開くことになり、今年で13回目を数えます。今では現地のパキスタンだけでなく、パキスタンからどこか外国に働きに出掛けている人々も大東大の詩会の様子をリアル・タイムで聞けるようになり、大東大は今では日本で詩会を開く大学としても有名であります。

さらにまた国際関係学部では、学部開設以来毎年、協定校より招聘研究員を呼んでおります。パ

キスタンからも4年に1人ぐらゐの割りで来ており、カラチー大学やパンジャブ大学から併せて7名が来て、これもパキスタンで人々の関心を引く大学にさせています。

前書きが大分長くなってしまいましたが、大東大がパキスタンで有名であるということをは是非とも知っておいてもらわないとこれからの話が通じないからであります。

3月23日、イスラマバードの大統領府で授章式がありました。名前を呼ばれたら大統領の前に立ち、勲記が読み終わったら大統領の前に進み出よと前日のリハーサルで指示がありました。当日リハーサルでの指示通り、私は神妙に大統領の前に立つと、私に対する勲記が読み上げられ、それはウルドゥー文学の翻訳と日本でのウルドゥー語教育の貢献に寄与したというものであります。

考えてみますと20数年前の『ディーワーネ・ガーリブ』を訳してみたいという思いは、大海を前にした滴の一滴で、大海の中にいつ消えてしまっても不思議ではなかったのであります。それが幸運にも大学という固い貝の中に取り入れられ、20年以上の間荒海から守られてきました。そしてそれが曲りなりにも真珠らしき物となると、傲慢にも外へ出たい出たいと思っているうちに私を包んでくれた貝はパキスタンで有名な貝になっていたの

す。そこで親の光は七光で外に出るとパキスタンでこんな私でも破格の扱いを受けることになってしまいました。

ということで今回の件はみんなみなさんのお陰です。今度はパキスタンの人の期待にそえるよう、

まだ日本で充分紹介されていないパキスタン人の心であるイクバルの詩を一つでも余分に紹介していくのが私に課せられた務めだと思っております。本当にありがとうございます。

(東洋研究所兼担研究員)



パキスタン・イスラム共和国（ザルダリー大統領より）
シターラ・エ・イムティアーズ勲章（輝ける星）受章
2010/03/23



2010 年度 東洋研究所共同研究課題

(専=専任研究員、担=兼担研究員、任=兼任研究員、特=特別兼任研究員)

1 班	東洋における異文化の本質的相違性に関する研究
	<p>期 間 2010～2012年度 (継続)</p> <p>メンバー (12名) 専松本照敬〔主任〕 福田俊昭・兵頭 徹・山田 準・岡崎邦彦・小林春樹 担近藤正臣・中村昭雄・片岡弘次・田辺 清・新里孝一・井上貴子</p> <p>概 要 今日の複雑な社会情勢を眺める人は、多様な価値観の存在を相互に認め合うことの必要性を痛感するであろう。地球という有限な環境の中で、多くの生命が共存する社会の在り方が模索されねばならない。本共同研究は、こうした「共生社会」の創造を視野において、東洋における異文化及び東西文化に見られる相違性を抽出することを目指している。異文化の根底にある相違性が認識されれば、相互理解への途も開けてくるであろう。21世紀における新しい社会の創造を探求して先駆的な研究を進めていきたい。</p>
2 班	歴史的にみた中国の対少数民族政策と少数民族の伝統的社会
	<p>期 間 2008～2010年度 (研究期間中)</p> <p>メンバー (5名) 担岡田宏二〔主任〕 村井信幸 任谷口房男・由川 稔 特加治 明</p> <p>概 要 今日の中国は、漢民族と55の少数民族を含む56種の民族によって構成される多民族国家であり、中国において漢民族の対少数民族関係がもつ意義は大きく、漢民族と少数民族との関係は長い歴史を通じて形成されてきたものである。そこで本研究では過去において両者のあいだにはどのような関係があり、漢民族は少数民族に対してどのような政策をとってきたか、また少数民族側の政治や伝統的な文化・社会組織がどのようなものであったか、などといった点についての実証的な研究を行う。</p>
3 班	中国 21 世紀の発展と課題
	<p>期 間 2009～2011年度 (研究期間中)</p> <p>メンバー (13名) 専岡崎邦彦〔主任〕 担内田知行・柴田善雅・齊藤哲郎・鹿 錫俊・内藤二郎 任安藤正士・伊藤一彦・上野英詞・窪田道夫 特小島麗逸・近藤邦康・中島 宏</p> <p>概 要 21世紀を迎えて、中国の急速な経済発展はアジアばかりか、世界のあらゆる方面に大きく影響を及ぼしている。とりわけ近年は、東アジア諸国の共同体構想という新たな展開をむかえ、中国の対外戦略、国内政治の大きな変化の時代にさしかかっている。本研究はこうした視点に立って今後中国の行方を様々な方面から検討し、中国の発展戦略と今後の問題点を見極め、明らかにすることである。さらに、大学各学部やアジア研究に関する研究会との合同研究会を通じて、中国に対する理解と研究方法の発展に貢献したい。</p>
4 班	昭和社会経済史の総合的研究
	<p>期 間 2008～2010年度 (研究期間中)</p> <p>メンバー (5名) 専兵頭 徹〔主任〕 担大杉由香・小湊浩二・武田知己 任石井寛治</p> <p>概 要 第4班では、『昭和社会経済史料集成』の刊行に際し、第Ⅰ期の「海軍省資料」全30巻を完結し、ついで第Ⅱ期「昭和研究会資料」(全7巻)の完結に目途をつける段階に到達した。そこで本研究班では上記刊行物の完成につとめ、併せて新規の研究分担者を迎えて昭和史の総合的な研究をすすめながら、研究成果物の刊行に向けた準備を進めていきたい。</p>
5 班	日中文学の比較文学的研究—『藝文類聚』を中心に—
	<p>期 間 2008～2010年度 (研究期間中)</p> <p>メンバー (8名) 専福田俊昭〔主任〕 担日吉盛幸・浜口俊裕・中林史朗・藏中しのぶ 任成田守・芦川敏彦 特遠藤光正</p> <p>概 要 本邦に伝来する最古の現存類書の『藝文類聚』は我が国の古典文学に多大の影響を与えていることは周知の事実である。それが今日に至るまで雑家の書として等閑視されてきた嫌いがある。それ故、未読解の本書を訓読して、原典との校勘、典拠の解明、索引の作成をすることは、単に国文学への影響のみならず、類書学上においても大いに貢献するものであると考える。その研究成果を逐年刊行して今日に及んでおり、斯学の評価を得ている。</p>

6 班	大西洋世界とインド洋＝太平洋世界を結ぶもの：西欧植民地主義再考
	期 間 2008～2010年度（研究期間中）
	メンバー（6名） 専山田 準〔主任〕 担岡倉 登志・瓜生 洋一・瀧口 明子 任生田 滋・齋藤 俊輔
概要	<p>西欧植民地主義の成立、発展、機能、思想的背景については数多くの研究がなされてきた。これら西欧植民地主義の歴史研究は、ヨーロッパと新大陸つまり大西洋世界、ヨーロッパと旧大陸つまりインド洋＝太平洋世界を対象とし、それとは別に植民地宗主国の歴史研究が存在した。</p> <p>これら大西洋世界における西洋植民地主義の歴史研究からは太平洋世界における植民地主義が見えてこない。逆にインド洋＝太平洋世界における西欧植民地主義の歴史研究からは、大西洋世界の植民地主義は見えてこない。</p> <p>このように三大研究対象を比較統合した研究にはなかなか行き当たらない。そこでこの研究班では、大西洋世界、植民地宗主国、インド洋＝太平洋世界の三大地域を結ぶ紐帯としての植民地主義の機能を明らかにすることを目的として、いくつかの個別的研究を分担して実施しようとするものである。</p>
7 班	唐・李鳳撰『天文要録』の研究（訳注作業を中心として）
	期 間 2010～2012年度（継続）
	メンバー（11名） 専小林 春樹〔主任〕 担渡 邊 義浩 任小坂 眞二・小林 龍彦・近藤 正則・中村 士・山下 克明・細井 浩志・中村 聡 特濱 久雄・進藤 英幸
概要	<p>2009年度に開始した課題を継続して、日本の前田尊経閣文庫にのみ写本が所蔵されている貴重な天文関係史料である『天文要録』（唐・李鳳撰）全26冊の訳注を、毎年一冊の割合で完成し、かつ、それを公刊していく。</p>
8 班	和漢比較文学の研究－『古金石逸文』を中心にして－
	期 間 2009～2011年度（研究期間中）
	メンバー（2名） 専福田 俊昭〔主任〕 担藏 中 しのぶ
概要	<p>ここでいう「古金石逸文」とは中国唐代の墓誌銘をいう。その研究は、まだ緒に着いたばかりで、訓読は勿論のこと、注釈書さえない。この研究班が先鞭となるべく、本文の翻刻を始め、校異、訓読、語釈、現代語釈を行い、考説・参考などを加えて刊行することを目標とする。</p> <p>尚、「古金石逸文」に関連する書籍の研究も含む。これが日本文学の研究への一助となれば幸甚である。</p>
9 班	茶の湯と座の文芸
	期 間 2008～2010年度（研究期間中）
	メンバー（6名） 担藏 中 しのぶ〔主任〕 専福田 俊昭 任渡 辺 信和・相田 満・矢ヶ崎 善太郎・安保 博史
概要	<p>平成16年度～18年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（C）（2）「茶の湯と座の文芸の本質の研究－『茶譜』を軸とする知的体系の継承と人的ネットワーク」の成果を発展的に継承すべく、江戸時代中期寛文年間成立とされる茶道百科事典『茶譜』全十八巻の注釈研究をおこなう。研究分担者は、科研費研究から継続して参加する藏中しのぶ（日本文学・上代中古文学）、福田俊昭（中国文学）、相田満（情報学・中古中世文学）に加えて、渡辺信和（日本文学・中世仏教文学）、安保博史（日本文学・近世文学）矢ヶ崎善太郎（建築史・茶室建築）を新たに迎え、茶道文献を対象とした学際研究をめざす。</p>
10 班	『晉書』の研究
	期 間 2010～2012年度（新規）
	メンバー（8名） 担渡 邊 義浩〔主任〕 専小林 春樹 任町田 隆吉・小林 聡・石井 仁・仙石 知子・高橋 康浩・池田 雅典
概要	<p>現在、二十四史に含まれる『晉書』は唐代の編纂にかかるもので、史料的に偏向が多いと言われている。唐修『晉書』の原史料となった十八家『晉書』は、断片的ではあるが、類書に散見する。従来から言われてきたような偏向が、果たして『晉書』に存在するの否か、という問題を『晉書斟注』および『十八家晉書』を利用した校補本『晉書』の作成により解明していくことが、本研究の目的である。</p>

■ 1班 = 東洋における異文化の本質的相違性に関する研究

【研究会】場 所：東洋研究所共同研究室

①日 時：2009年7月9日(木) 13:00 ~ 15:00

発表者：福田 俊 昭

テーマ：『懐風藻』に見える日本の固有名詞と説話
内 容：『懐風藻』における日本の固有名詞について、地名としては「吉野」人名としては「長屋王」に集中しており、他の地名・人名はほとんど見られない。漢詩を作るほどの当時の知識人は、ほぼ大和地方に居住していたと推定される。

②日 時：2009年11月5日(木) 13:00 ~ 15:00

発表者：小 林 春 樹

テーマ：日中韓三大学シンポジウム報告

内 容：2009年9月15 - 16日に韓国成均館大学で行われた第3回東アジア文化・哲学学術会議に小林春樹准教授が参加し研究発表をおこなった。小林准教授が、学会の概要と、自身が発表した「司馬遷における『史記』述作の個人的動機について」の内容を写真と動画を用いて報告した。

③日 時：2009年12月3日(木) 13:00 ~ 15:00

発表者：山 田 準

テーマ：IT教育の現状と将来の展望

内 容：1980年代においては、IT革命は、キーボードおよびプログラミングの練習を教育することで、その歩みを開始した。1990年代にはプログラミング教育の必要性がなくなり、アイコンによる操作が普及した。パソコン通信からインターネットへと移行したのがこの時代である。2000年代前半にはシステム、ソフト、メールなどが急速に普及したが、後半にはインターネット世代による種々の問題が噴出した。機器そのものはさらに発展しつづけるものと思われるが、コンピューターの持つ負の側面をどのように解決してゆくか、が焦眉の課題となっている。

■ 2班 = 歴史的にみた中国の対少数民族政策と少数民族の伝統的社会

【研究会】

①日 時：2010年3月9日(火) 16:00 ~ 17:30

場 所：大東文化会館 4階 403室

参加者：岡 田 宏 二・村 井 信 幸・

加 治 明 ・由 川 稔

発表者：由 川 稔

テーマ：「モンゴル国の地下資源開発をめぐる諸問題」

■ 3班 = 中国 21 世紀の発展と課題

【研究会】場 所：大東文化会館研修室

①日 時：2009年4月25日(土) 15:00 ~ 17:00

発表者：安 藤 正 士

テーマ：「1972年日中共同声明から現在に至る日中関係の展開—『現代中国年表』(岩波書店)を中心に—」

※安藤正士著『現代中国年表 1941 - 2008』(岩波書店)は今年4月に出版されました。

アジア太平洋戦争から2008年までの現代中国総合年表であり、現代中国研究にとって必携の書籍です。

②日 時：2009年5月23日(土) 15:00 ~ 17:00

発表者：近 藤 邦 康

テーマ：「『毛沢東の思想と文化大革命』補論—今後の課題」

③日 時：2009年6月27日(土) 15:00 ~ 17:00

発表者：小 島 麗 逸

テーマ：「中国経済60年史のえがき方」

④日 時：2009年9月26日(土) 15:00 ~ 17:00

発表者：岡 崎 邦 彦

テーマ：「西安善後処理と2・2事件」

⑤日 時：2009年11月28日(土) 15:00 ~ 17:00

発表者：安 藤 正 士

テーマ：「中国近代化と都市—条約都市から改革開放都市へ—」

⑥日 時：2010年1月30日(土) 15:00 ~ 17:00

発表者：上 野 英 詞

テーマ：「南シナ海における関係各国の角逐—中国の領有権主張を巡って」

※第2班研究会は、学内外の教員、研究者へ向け公開して研究会を行っています。また、第2班研究員、小島麗逸先生主催の「中国経済研究会」(毎月1回、大東文化会館)の参加者と共同、協力して開催しております。

■ 4班 = 昭和社會經濟史の総合的研究

【研究会】場 所：環境創造学部共同研究室

①日 時：2009年6月27日(土) 13:00 ~ 16:00

参加者：兵 頭 徹 ・大 杉 由 香・
小 湊 浩 二

テーマ：「昭和史の諸問題」

【研究会】場 所：東洋研究所兵頭研究室

②日 時：2009年7月9日(木) 13:00 ~ 16:00

参加者：兵 頭 徹 ・大 杉 由 香・
石 井 寛 治

テーマ：「成果物刊行に向けた研究計画について」

【刊行物】

『昭和社會經濟史料集成—昭和研究会資料(6)』
第36巻 2009年8月31日刊行

■ 5班 = 日中文学の比較文学的研究－『藝文類聚』を中心に－

【研究会】場 所：東洋研究所共同研究室

日時	人数	担当者	テーマ
① 4月25日(土)	5名	福田俊昭	巻84訓読
② 5月23日(土)	5名	福田俊昭	巻84訓読
③ 6月20日(土)	4名	芦川敏彦	巻84訓読
④ 7月25日(土)	5名	芦川敏彦	巻84訓読
⑤ 9月12日(土)	5名	中林史朗	巻84訓読
⑥ 10月17日(土)	5名	中林史朗	巻85訓読
⑦ 11月21日(土)	5名	河井義樹	巻85訓読
⑧ 12月26日(土)	5名	河井義樹	巻85訓読
⑨ 1月23日(土)	5名	福田俊昭	巻85訓読
⑩ 2月27日(土)	5名	福田俊昭	巻85訓読
⑪ 3月27日(土)	5名	中林史朗	巻85訓読

【刊行物】

『藝文類聚』(巻83) 訓読付索引

2010年3月25日刊行

■ 6班 = 大西洋世界とインド洋＝太平洋世界を結ぶもの：西欧植民地主義再考

【研究会】場 所：東洋研究所共同研究室

①日 時：2009年6月20日(土) 13時30分～15時

参加者：生田 滋・岡倉登志・
瓜生洋一・山田 準・
瀧口明子・齋藤俊輔

発表者：瓜生洋一

テーマ：1. 瓜生教授のフランスでの研究報告
2. 万国博覧会と植民地主義について

【研究会】場 所：池袋

②日 時：2009年12月26日(土) 11時～14時

参加者：生田 滋・岡倉登志・
山田 準・瀧口明子・
齋藤俊輔

テーマ：1. 研究成果出版計画について
2. 来年度購入計画文献について

■ 7班 = 中国、日本の天文・暦学に関する総合的研究

【研究会】場 所：東洋研究所共同研究室 (以下、同様)

①日 時：2009年4月11日(土) 13:00～18:00

参加者：小林春樹・近藤正則・
濱 久雄(大兼健寛・田中良明)

テーマ：『天文要録』第一冊(巻一)、一之一の訓読文の完成原稿作成、現代語訳草案の作成

②日 時：2009年5月16日(土) 13:00～18:00

参加者：小林春樹・近藤正則・
濱 久雄(大兼健寛・田中良明)

テーマ：『天文要録』第一冊(巻一)、一之一の訓読文の完成原稿作成、現代語訳草案の作成

③日 時：2009年6月13日(土) 13:00～18:00

参加者：小林春樹・近藤正則・

濱 久雄(大兼健寛・田中良明)

テーマ：『天文要録』第一冊(巻一)、一之二の訓読文の完成原稿作成、現代語訳草案の作成

④日 時：2009年7月11日(土) 13:00～18:00

参加者：小林春樹・近藤正則・
濱 久雄(大兼健寛・田中良明)

テーマ：『天文要録』第一冊(巻一)、一之三の訓読文の完成原稿作成、現代語訳草案の作成

⑤日 時：2009年9月12日(土) 13:00～18:00

参加者：小林春樹・近藤正則・
濱 久雄(大兼健寛・田中良明)

テーマ：『天文要録』第一冊(巻一)、一之四の訓読文の完成原稿作成、現代語訳草案の作成

⑥日 時：2009年10月17日(土) 13:00～18:00

参加者：小林春樹・近藤正則・
濱 久雄(大兼健寛・田中良明)

テーマ：『天文要録』第一冊(巻一)、一之五の訓読文の完成原稿作成、現代語訳草案の作成

⑦日 時：2009年11月14日(土) 13:00～18:00

参加者：小林春樹・近藤正則・
濱 久雄(大兼健寛・田中良明)

テーマ：『天文要録』第一冊(巻一)、一之五の訓読文の完成原稿作成、現代語訳草案の作成

⑧日 時：2009年12月12日(土) 13:00～18:00

参加者：小林春樹・近藤正則・
濱 久雄(大兼健寛・田中良明)

テーマ：『天文要録』第一冊(巻一)、一之六の訓読文の完成原稿作成、現代語訳草案の作成

⑨日 時：2010年1月23日(土) 13:00～18:00

参加者：小林春樹・近藤正則・
濱 久雄(大兼健寛・田中良明)

テーマ：『天文要録』第一冊(巻一)、一之七の訓読文の完成原稿作成、現代語訳草案の作成

⑩日 時：2010年2月13日(土) 13:00～18:00

参加者：小林春樹・近藤正則・
濱 久雄(大兼健寛・田中良明)

テーマ：『天文要録』第一冊(巻一)、一之八の訓読文の完成原稿作成、現代語訳草案の作成

⑪日 時：2010年3月13日(土) 13:00～18:00

参加者：小林春樹・近藤正則・
濱 久雄(大兼健寛・田中良明)

テーマ：『天文要録』第一冊(巻一)、一之九の訓読文の完成原稿作成、現代語訳草案の作成

■ 8班 = 和漢比較文学の研究－「古金石逸文」を中心に－

【研究会】

①日 時：2009年5月10日(日)

②日 時：2009年9月13日(日)

③日 時：2009年12月6日(日)

④日 時：2010年2月21日(日)

場 所：東洋研究所福田研究室

テーマ：「大安寺碑文」

■9班 = 茶の湯と座の文芸

【研究会】場 所：池坊短期大学

①日 時：2009年4月26日（日）10:00～18:00

場 所：池坊短期大学

参加者：藏 中 しのぶ・相 田 満 ・
安 保 博 史・矢ヶ崎 善太郎・
渡 辺 信 和・松 本 公 一・
藏 重 伸 ・金 井 悦 子

内 容：今年度の研究計画・担当配分
金 井 悦 子「『茶譜』岩瀬文庫本書誌
調査報告」
藏 中 しのぶ「手水鉢之事」

②日 時：2009年6月27日（土）10:00～18:00

場 所：池坊短期大学

参加者：藏 中 しのぶ・相 田 満 ・
安 保 博 史・矢ヶ崎 善太郎・
渡 辺 信 和・松 本 公 一・
藏 重 伸 ・金 井 悦 子

内 容：安 保 博 史「同柄杓之事 附柄杓寸法」
渡 辺 信 和「石灯笼之図」

③日 時：2009年6月28日（日）10:00～18:00

場 所：池坊短期大学

参加者：藏 中 しのぶ・相 田 満 ・
安 保 博 史・矢ヶ崎 善太郎・
渡 辺 信 和・松 本 公 一・
藏 重 伸 ・金 井 悦 子

内 容：渡 辺 信 和「利休形板灯笼図」
相 田 満 「利休流飛石之事」「織部
流飛石之事」

④日 時：2009年7月4日（土）10:00～18:00

場 所：池坊短期大学

参加者：藏 中 しのぶ・相 田 満 ・
安 保 博 史・矢ヶ崎 善太郎・
渡 辺 信 和・松 本 公 一・
藏 重 伸 ・金 井 悦 子

内 容：相 田 満 「宗和流飛石之事」「刀掛

之図」

⑤日 時：2009年9月8日（火）10:00～18:00

場 所：大東文化会館

参加者：藏 中 しのぶ・福 田 俊 昭・
相 田 満 ・安 保 博 史・
矢ヶ崎 善太郎・渡 辺 信 和・
松 本 公 一・金 井 悦 子

内 容：松 本 公 一「宗旦枝折戸之図」「織部
流竹筭戸之事」「同柵垣之
事」
金 井 悦 子「『茶譜』国会図書館本書
誌調査報告」

⑥日 時：2009年10月21日（水）10:00～20:00

場 所：大東文化大学藏中しのぶ研究室

参加者：藏 中 しのぶ・福 田 俊 昭・
相 田 満 ・安 保 博 史・
渡 辺 信 和・金 井 悦 子

内 容：藏 中 しのぶ「宗和竹之枝垣之事」「猿
戸之事」「砂利壇之事 附
土合方」

⑦日 時：2009年11月8日（日）10:30～17:00

場 所：大東文化大学藏中しのぶ研究室

参加者：藏 中 しのぶ・福 田 俊 昭・
相 田 満 ・安 保 博 史・
渡 辺 信 和・金 井 悦 子

内 容：原稿とりまとめ

⑧日 時：2009年12月20日（日）10:30～17:00

場 所：大東文化大学藏中しのぶ研究室

参加者：藏 中 しのぶ・福 田 俊 昭・
相 田 満 ・安 保 博 史・
渡 辺 信 和・金 井 悦 子

内 容：原稿とりまとめ

【刊行物】

『茶譜』巻二注釈 2010年3月25日刊行

（国際交流）吉林師範大学東亜研究所との交流協定締結

所長 山 田 準

昨年度より、大東文化大学東洋研究所と吉林師範大学東亜研究所との交流協定について、国際交流センターと協議をしながら協定書締結に向けて準備を進めてまいりましたが、本年3月29日に国際交流センター長の署名を頂き、4月6日に吉林師範大学国際交流与合作处处长の署名を頂き、両研究所は、互惠平等と相互理解の精神に則り、研究所間の学術的研究の国際協力を強化推進して行くことになりました。

内容的には1.研究員交換2.学術研究活動に關す

る協定3.学術資料等刊行物の交換4.その他の交換プログラムからなっており、先ず東洋研究所の刊行物を東亜研究所に寄贈致しました。今後、両研究所間で、具体的な交流プログラムを協議し、共同研究等実りある交流を進めて行きたいと思っております。

吉林師範大学は年度の途中であり、具体的な計画は9月の新年度に向けて行われることになり、両研究所にとって国際交流の推進の第1歩を踏み出しました。

(国際交流講演会) 通訳者としてのプロ意識の生む通訳者の存在価値とは —中・日通訳トレーナーの視点から—

(中国) 大連外国語学院 張 宇 澄 (客員研究員)

日時：2010年2月20日(土) 15:00～16:30 場所：大東文化会館 K-0302 研修室

国際化が進んでいる今日、「通訳」に触れる機会も確実に増えている反面、「通訳」を考える機運が相応に高まっているとは言えない。一時の接触者は勿論、常時の従事者にとっても多くの場合、「通訳者」はまさに「近くて遠い存在」である。このような矛盾した現象をもたらす最も大きな要因としては、理論と実践の乖離が著しいということが考えられる。

通訳研究が世界範囲で遅れている中で、本講演は、聴講者とともに、もう一度原点に立ち返り、通訳領域の「我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか」のような根本的な問いへの回答を考え直すことによって、実践に還元できるような実践から抽出したエッセンスを味わうことができると願うものである。

核心内容は、あり方・構え方があるはじめてやり方が活きる。そして、やり方が生きてはじめて真の価値を生み出せるという発想から、他人の研究成果・自分の現行課題・授業展開の方法・通訳教育の現状に関する話と結び付けながら、通訳者のプロ意識をあり方・構え方・やり方という三

つの層で、さらに通訳者の存在価値を無形の価値・有形の価値という二つの面で考察を試みることである。

具体的には、まず、あり方については、役割・プロセス・適性という三つのキーワードに焦点を絞り、次に、構え方については、事前準備・経過監視・事後反省という三つのステージに定点を置き、それから、やり方については、翻訳者との差別化・バイリンガルとの差別化・外国語学習者との差別化という三つの側面にスポットライトを当てることによって、「通訳サービス」のプロバイダーであると同時に「通訳プロダクト」のメーカーでもあるという通訳者の存在価値を自然に導き出す、という展開で、講演者の「通訳者は、異言語・文化の間で、直訳—意識、略訳—補訳、静訳—動訳といった究極の二択を絶え間なく迫られる中で、常に状況に応じて的確に判断し、柔軟に対応することで、コミュニケーター＝伝達者の役割を果たさなければならない」というような通訳観を、聴講者と共有することを狙う。



名 簿

■名 簿

東洋研究所管理委員会委員 (8名)

山田 準 (所長・専任研究員)
 福田 俊 昭 (専任研究員)
 松本 照 敬 (専任研究員)
 兵頭 徹 (専任研究員)
 瓜生 洋 一 (兼担研究員)
 岡田 宏 二 (兼担研究員)
 片岡 弘 次 (兼担研究員)
 渡邊 義 浩 (兼担研究員)

所長・専任研究員 (6名)

所 長
 山田 準 教 授 (東西交渉史・貿易史)

研究員

福田 俊 昭 教 授 (日中比較文学・中国文学史)
 松本 照 敬 教 授 (インド思想史)
 兵頭 徹 教 授 (日本経済史)
 岡崎 邦 彦 准教授 (中国政治経済)
 小林 春 樹 准教授 (東洋哲学)

事務室 (3名)

事務長 西城 貞 俊
 臨時職員 大山 郁 子
 アルバイト 伊 東 知 子

兼担研究員 (24名)

日吉 盛 幸 (文・日本文学科 教授)
 浜口 俊 裕 (文・日本文学科 准教授)
 中林 史 朗 (文・中国学科 教授)
 渡邊 義 浩 (文・中国学科 教授)
 村井 信 幸 (文・中国学科 准教授)
 岡倉 登 志 (文・英米文学学科 教授)
 近藤 正 臣 (経・社会経済学科 教授)
 内藤 二 郎 (経・社会経済学科 教授)
 藏 中 しのぶ (外・日本語学科 教授)
 瓜生 洋 一 (法・政治学科 教授)
 齊藤 哲 郎 (法・政治学科 教授)
 中村 昭 雄 (法・政治学科 教授)
 武田 知 己 (法・政治学科 准教授)
 内田 知 行 (国・国際関係学科 教授)
 柴田 善 雅 (国・国際関係学科 教授)
 瀧口 明 子 (国・国際関係学科 准教授)
 新里 孝 一 (国・国際関係学科 准教授)
 井上 貴 子 (国・国際文化学科 教授)
 岡田 宏 二 (国・国際文化学科 教授)
 片岡 弘 次 (国・国際文化学科 教授)
 田辺 清 (国・国際文化学科 教授)
 鹿 錫 俊 (国・国際文化学科 教授)
 大杉 由 香 (環・環境創造学科 准教授)
 小湊 浩 二 (環・環境創造学科 講師)

兼任研究員 (28名)

相田 満 (国文学研究資料館助教)
 芦川 敏 彦 (浜松学芸高等学校講師)
 安保 博 史 (群馬県立女子大学教授)
 安藤 正 士 (筑波大学名誉教授)

生田 滋 (大東文化大学名誉教授)
 池田 雅 典 (大東文化大学非常勤講師)
 石井 寛 治 (東京大学名誉教授)
 石井 仁 (駒澤大学准教授)
 伊藤 一 彦 (宇都宮大学教授)
 上野 英 詞 (海洋政策研究財団調査役)
 窪田 道 夫 (筑波大学知的財産統括本部専門員)
 小坂 眞 二
 小林 聡 (埼玉大学教授)
 小林 龍 彦 (前橋工科大学教授)
 近藤 正 則 (岐阜女子大学教授)
 齋藤 俊 輔 (日伯学園講師)
 仙石 知 子 (駿河台大学非常勤講師)
 高橋 康 浩 (大東文化大学非常勤講師)
 谷口 房 男 (東洋大学教授)
 中村 聡 (玉川大学教授)
 中村 士 (帝京平成大学教授)
 成田 守 (大東文化大学名誉教授)
 細井 浩 志 (活水女子大学教授)
 町田 隆 吉 (桜美林大学教授)
 矢ヶ崎 善太郎 (京都工芸繊維大学大学院准教授)
 山下 克 明 (国際日本文化研究センター研究員)
 由川 稔 (東京工学院総合研究所教育部)
 渡辺 信 和 (同朋大学仏教文化研究所室長)

特別兼任研究員 (7名)

遠藤 光 正 (無窮会理事、東洋研究所元所長)
 加治 明 (大東文化大学名誉教授)
 小島 麗 逸 (大東文化大学名誉教授)
 近藤 邦 康
 進藤 英 幸 (了徳寺大学教授)
 中島 宏 (中国研究所理事)
 濱 久 雄 (無窮会専門図書館長)

■管理委員会

- ①日 時：2009年6月25日（木）10:30～
場 所：東洋研究所共同研究室
議 案：
1.平成21年度東洋研究所予算について
2.平成22年度事業計画（案）について
3.平成21年度公開講座の実施について
4.『東洋研究』の発行について
5.その他
- ②日 時：2009年12月10日（木）10:30～
場 所：東洋研究所共同研究室
議 案：
1.平成22年度東洋研究所の人事について
2.兼担依頼について
3.兼職について
4.平成22年度予算積算について
5.平成22年度東洋研究所刊行物の企画について
6.平成21年度研究員総会、国際交流（講演会）
の実施予定について
7.その他
- ③日 時：2010年2月20日（土）13:00～
場 所：大東文化会館 K-0301 研修室
議 案
1.平成22年度研究員人事について
2.平成21年度出版計画の変更について
3.平成21年度研究員総会及び国際交流講演会に
ついて
4.その他

■所内会議

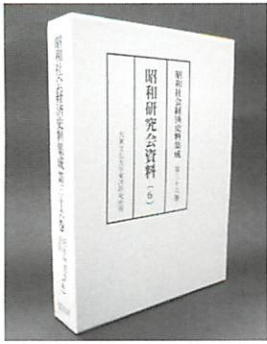
- ① 4月16日（木）10:00～
② 5月14日（木）10:00～
③ 6月11日（木）10:30～
④ 7月9日（木）10:00～
⑤ 10月1日（木）10:00～
⑥ 11月5日（木）10:00～
⑦ 12月3日（木）10:00～
⑧ 1月14日（木）10:00～
⑨ 2月18日（木）10:00～

■共同研究部会主任会議

- ① 4月23日（木）10:30～
② 5月21日（木）10:30～

- 東洋研究 第172号（平成21年7月25日発行）
大 谷 光 男：天皇即位の冕服に関わる文献
について
小 林 春 樹：『漢書』「元后伝」・「王莽伝」
の構成と述作目的
福 田 俊 昭：『朝野僉載』に見える識應説
話（後編）
岡 崎 邦 彦：1937年西北善後処理問題
（上）－張学良拘束による西
安と南京の対立－
松 本 照 敬：ラーマヌジャ思想の研究（6）
- 東洋研究 第173号（平成21年11月25日発行）
藏 中 しのぶ：三つの道璿伝－「鑑真伝三部
作」における隆尊伝・道璿伝
安 保 博 史：芭蕉句「世にふるもさらに
宗祇のやどり哉」考－芭蕉説
話化の一道程－
兵 頭 徹：海軍省調査課と囑託の役割
（5）－各種懇談会・研究会の
活動－
大 杉 由 香：日本におけるNPOの現況と問
題点－日米比較を通して見え
てきた課題－
- 東洋研究 第174号（平成21年12月25日発行）
相 田 満：六国史のキツネーその祥瑞と
怪異をめぐって－
渡 邊 義 浩：西晉「儒教国家」の限界と八
王の乱
新 里 孝 一：ケアと＜注意力＞－S・ヴェ
イユをめぐって
柴 田 善 雅：第1次大戦期日本政府の戦争
海上保険介入
- 東洋研究 第175号（平成22年1月25日発行）
濱 久 雄：太宰春台の易学思想
小 坂 眞 二：十一世紀代の怪異六壬式占文
について（下）
山 下 克 明：陰陽道の特質と関係典籍
田 辺 清：ルネサンス絵画と中国陶磁器
（II）

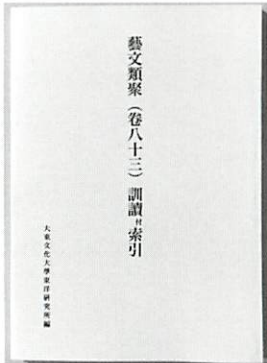
新刊案内



『昭和社會經濟史料集成』 第36巻 昭和研究会資料 (6)
兵頭 徹・大久保 達正・永田 元也 編集
2009年8月31日発行/A5判 514頁/頒価¥7,000 (税別)

昭和研究会は、後藤隆之助(1888～1984)主宰のもと昭和8年に発足した民間国策研究機関で、近衛文麿(1891～1945)のプレーン・トラスト集団である。政治、外交、経済、社会、教育、文化等の分野に当時一流の有識者が数多くの政策研究案を立案した。

《既刊》第1～30巻 海軍省資料(1)～(30) 第31～35巻 昭和研究会資料(1)～(5)
☆ 第37巻 昭和研究会資料(7) 2010年8月刊行予定

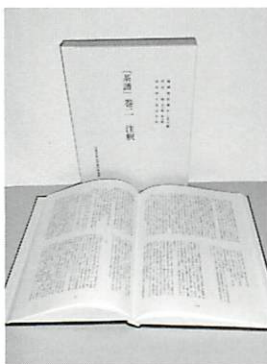


『藝文類聚』(巻83) 訓読付索引
大東文化大学東洋研究所『藝文類聚』研究班 代表 福田 俊 昭
2010年3月25日発行/B5判 88頁/頒価¥5,000 (税別)

『藝文類聚』は中国の類書の中でも早い成立に属する類書で、日本文学への影響は計り知れないものがある。本書はその『藝文類聚』を巻ごとに訓読文を施し、四部叢刊に採録されている作品については校異を付し、最後に重要語彙索引を掲載したものである。

巻83には「寶玉部上」＝寶 金 銀 玉 珪を収録

《既刊》巻1～巻16、巻80、巻81、巻82 ☆巻84 2011年3月刊行予定



『茶譜』巻2 注釈
藏 中 しのぶ・福田 俊 昭・相 田 満・安 保 博 史・
矢ヶ崎 善太郎・渡 辺 信 和 共著
2010年3月25日発行/B5判 204頁/頒価¥7,000 (税別)

『茶譜』全18巻は、茶道流派の生成がきざし始めていた寛文年間(1661～1673)頃の成立とされ、茶道全般におよぶ総合的な類聚編纂書である。各項目について、千利休流・小堀遠州流・古田織部流・金森宗和流等、流派のちがいを対照的に提示しつつ、茶の湯や茶室にかかわるさまざまな記事を類聚編纂した茶道百科事典ともいべき性格を備えている。

《既刊》巻1 ☆巻3 2011年3月刊行予定

☆この他の東洋研究所刊行物についてはホームページをご覧ください。

刊行図書取扱店

■巖南堂書店
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-13-1
TEL (03) 3262-7234

■池上書店 (大東文化大学板橋校舎内)
〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1
TEL (03) 3932-7567

■汲古書院
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-5-4
TEL (03) 3265-9764

■進明堂 (大東文化大学東松山校舎内)
〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560
TEL (0493) 34-4430

大東文化大学東洋研究所所報 No.53

2010年6月25日発行

編集・発行 大東文化大学東洋研究所
〒175-0083 東京都板橋区徳丸2-19-10
TEL(03)5399-7351 FAX(03)5399-8756
E-mail: tokenji@ic.daito.ac.jp
URL http://www2.daito.ac.jp
印刷 (株)東京技術協会